

熊野古道の安全点検 セーフティネットワーク

熊野古道セーフティネットワーク（松本郁也会長）は17日、田辺市中辺路町の熊野古道を歩いて古道と周辺の安全を点検した。

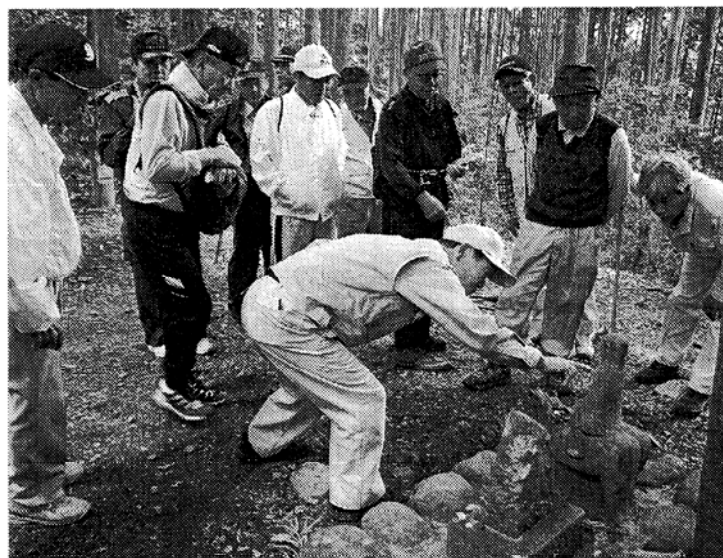
6月に古道のシンボルとして親しまれている牛馬童子像が壊される事件があったため、童子像周辺の古道を中心に歩いた。

同ネットワークは、田辺市本宮町と同市中辺路町の地域安全推進委員や交番、森林組合、観光協会などの団体が構

成している。

2005年夏に結成し、観光客や地元住民が安心できるまちにしようと、定期的に熊野古道や周辺地域を歩き、安全点検やごみ拾いなどの活動をしている。

この日は、同ネットワークのメンバー34人が参加した。今年と同市中辺路町近露の牛馬童子像近くの熊野古道を中心に活動した。童子像近くの道の駅から近露王子まで歩いた後、継枝王子までの古道を



修復した牛馬童子像を見学するメンバーら
(17日、田辺市中辺路町で)

車両で巡視した。修復した牛馬童子像も見学した。現場を見ながら、頭部が壊された時の様子や修復方法などを、語り部や市職員らに聞いた。

セーフティネットワークの松本会長（77）は「牛馬童子

の件は本当に悪質な出来事だと思う。数年前には本宮町の熊野古道近くでも不審火が相次いだ。今後、このような事件を無くすために、地域や行政機関との連携を強化しながら、活動を深めていきたい」と話した。